

小泉秀昭先生の定年ご退職にあたって

産業社会学部長・社会学研究科長 櫻井 純理

この度、小泉秀昭教授の定年ご退職を迎えるにあたり、産業社会学部・社会学研究科を代表して、挨拶をさせていただきます。

小泉先生は17年間、産業社会学部・大学院社会学研究科での教育・研究活動等を通じて立命館大学全体の学術発展に貢献され、多くの卒業生・修了生を社会に輩出してこられました。以下に小泉先生のご経歴を簡単に紹介させていただきます。

小泉先生は大学で経済学を専攻されたのち、フランスと日本の大学院でインターナショナルビジネス、商学、経営学を学ばれました。その後、広告代理店やコンサルティング企業等民間企業での勤務経験を経て、2005年4月に本学部に着任されています。

学部では「広告論」「広告表現論」「入門社会学」等の科目をご担当されました。ご自身の実務経験を活かした広告分野の講義科目（学部・研究科）に加え、小泉先生が小集団科目のご指導に大変熱心に取り組んでこられたことにも触れておきたいと思います。小泉先生は長年、「基礎演習交流会」という名称で、1回生「基礎演習」の複数のクラスが他の専攻・クラスの学生と研究報告し合う発表会を企画し、幹事として取りまとめを行ってこられました。また、3回生の専門演習（ゼミナール）では、オリエンタルランドをはじめとする外部企業と連携した課題解決型授業や、他大学の広告論のゼミとの合同の勉強会や研究発表会を続けてこられました。

着任後の学内役職としては、2009～10年度に副学部長、2020年度にサービスラーニングセンター長をお務めになられました。

研究面では、商学をご専門とされ、とりわけ広告取引、広告会社への報酬制度、広告メディアプランニング等のテーマを中心に、数多くの論文や著書を発表されています。2022年3月には単著『有機体的広告論』を出版され、ホワイトヘッド「有機体の哲学」等の思想を基盤とした創造的広告活動のあり方について、理論と実務の両面にわたる幅広い見地から提起されています。日本広告学会の常任理事もお務めになっており、当該分野の研究の発展や若手研究者育成にも尽力してこられました。

学部における小集団教育の取組みや工夫に関わって、小泉先生は「産社の1つの特徴である自主性と企画力を養う面」があることを指摘されています（『さんしゃZapping』201号、2022年3月）。コロナ禍の現状だからこそ、学生が「居場所」を得られる多様な機会を再び提供できるように努力を続け、小泉先生の学術への真摯な姿勢と見識を継承していきたいと考えています。長年本当にありがとうございました。最後になりましたが、小泉秀昭先生のますますのご活躍とご健康、ご多幸を心より祈念申し上げます。

2022年5月

